

杉万学部長との集い

2014. 6. 19. (総合人間学部棟1103)

○参加者

杉万学部長 教員：阪上(活性化委員長)、金(活性化委員会) 学部生14人

○杉万：「集い」の企画意図・動機について

- ・せっかく学部長になったのだから、「何か新しいことをやりたい」という希望から。
 - ・大学院は指導教員が決まっているのに対して、学部はクラス担任・アドバイザーなどはあるが、教員との繋がりが弱くなりがちで、学生の声が入りにくい。それで、学部生と直接対話できる機会を持ちたいと思った。
 - ・国際高等教育院反対闘争の時に、学生諸君に、「一緒に考えよう・一緒に動こう」とアピールしたが、その後、それが実現できていないと思う(※参考資料：総人・人環連絡協議会が編集している冊子：Integral「ある学生の告白」)。学生諸君に約束したことを実現できていないという反省から、この「集い」を企画した。
 - ・金：学部長は「総人をどうすれば良いのか」と問いかけてきましたが、学生は「総人はどのようなところで、どうしていけばいいのか」を知りたがっている。両者にギャップがある。杉万先生の方針・希望は？
- A：この集いでは、学部長的な発想を横に置いて、学生の要望に沿って考えて行きたい。

Q：集いの頻度は？

A：できれば月例にしたいけれども、二ヶ月に1回程度になるかもしれない。

Q：飲み会の形式も取るのか？

A：それは徐々に。タテコンなどにはできるだけ参加したい。

Q：総人についての悩み事など。

- ・学生1：入学の時点で4年間の全体像がみえない。入口と出口がみえない。
- ・学生2：「何でもできる」と「卒業後に就職は難しいか」とのギャップあり、不安。
- ・学生3：3回生になってからやっと分かるようになる。「失われた二年」という感じがする。理系の授業は3回生になって前もって聴いておけばよかったと感じることが多い。
- ・学生4(文化環境学専攻・日本思想で卒論かきたい・就職希望)：先輩が教えてくれたり、恵まれた環境なのであまり悩みがない。
- ・学生5：一般教養しか聴いていない文系1回生：法学・経済と違って一杯あるから何を受講して良いか分からない。専門を決めてから1年の授業が役に立たないのではない心配。
- ・学生6：決めつけられない自由な雰囲気が好き。総人がなくなる心配はないのか？存続して欲しい。A：まずそのような心配はない。学部ができるには「国会」の承認が必要。存続は確か。
- ・学生7：論文を書きたいと思うような面白い学門が見えてこない。興味あるものは取っているけど、新しい学門・研究に触れる機会がない。文系がさらに分かりづらい。

・学生8(同窓会のシンポジウムにも出ていた4回生)：三つの質問

Q1. 杉万先生はどのような人間を育てないのか。目指す人間像は？

A1. 文理両道に秀でた学生を目指したい。

Q2. 学部生をどれくらい把握しているのか。進路・趣向・問題意識など。

A2. アンケートの結果などは見ているし、自分の授業に出ている学生の意見は、ある程度聞いているが、まだまだ把握しているとは言えない。だからこの場を設けて話したいと思った。

Q3. 学部生のための勉強環境・設備を作りたい。

A3. 学生用の部屋(共用スペース)をつくってはどうかという案もある。ただし、その時にネックとなるのは部屋の管理の問題。吉田南キャンパスは、全学の多数の学生が利用する。総人生のために部屋をつくっても、それが他の目的に使用されるとなると問題が生じる。そのような管理の問題はあるが、何とか工夫して実現できればと思う。

・学生9(文系一回生。理系に興味あるが、受験は文系で)：両方やりたい。授業は文理どちらもとっている。4年以上かけてもゆっくりやっていきたい。分属を決めてからでも変更可能であることを入学前に知らせて欲しい。

A：カリキュラム改革も考えている。

・学生10(一回生)：理系好きだったけど、前期では文系ばかり取っている。むだなことをむだに決めつけたくない。やりたい人はやればいいし、やりたくなければやらなくてもいい、という雰囲気が好き。先輩・先生と話す機会が少なく。

・学生11(一回生)：閉じこもる・閉じこもらないも自分次第。学部の境目を感じないのが好き。オープンラブなどに参加。

・学生12(文系から入学した1回生)：哲学・思想に興味あるが、理系から思想研究やっていきたい。現状には満足しているが、履修登録をどうしようか迷った。前期は理系を。理科の知識は習得が難しく、文系なれの人にとっては追いつけないところがある。専門科目数が少ない。文系のことを理系で固める、しかしさしあたり戸惑う。

・学生13(3回生)：科目は全部自分の興味あるものであった。数学・理系だったが、文系のゼミばかりになった。自分の立場をまず固め、進んで、たちとまったときに専門外のことと結びつけることになっていったと思う。他学部の授業を取りたい時に困難な点がある。他学部との連携を工夫して欲しい。A：総人はデパートメントの状態。そこから他学部の授業への連携も考えることになる。連携ができるように努力すべきである。

・学生14(心は文系、頭は理系の学生)：授業は前期は文系をとっている。先生の研究テーマを知っていただく。文系は導入(introduction)の授業が欲しい。何やりたいのと聞かれたら答えが出ない。先生に関する情報が少ない。シラバスと授業内容とのギャップがある。自分にむけてしゃべってくれる授業が少ない。語りかけてくれない。

A：前期・後期から、学生による授業評価アンケートが実施される。その中で指摘したらどうか。

・学生12：入門科目が充実していない。総人と他学部との連携図が欲しい。

・学生10：大学がこんなに親切？手厚い。もっと放っておいてよい。

○金(大一回生のときから学科が決まっていた文学部出身)：皆さんの悩みは総人だけの悩みでなく、大学生1~2回生だったらだれしもが抱えているもの。学部・学科が1回生の時から決まっても4年間ずっと悩む。思い切り彷徨って自分が好きなこと、求めているものを形作って行って欲しい。

○阪上(理学部出身)：総人生が学んでいく標準的なコースが合った方がいいかもしれない。それはしょぼいもの反発されるものでもよい。取っかかりにする標準的なものが提示されていることでそこから離れる自由が生じる。多くの総人生は、何でもできるという自由だけ与えられて戸惑っているのではないか。

杉万先生との集い（2）

2014. 7. 17.（総合人間学部棟1103）

○参加者

杉万学部長

教員：阪上（活性化委員長）、金（活性化委員会）

学生：学部2、院生1

文理両道の問題について

・杉万：理系主専攻学生の7割は文系を副専攻としているが、文系主専攻学生では3割しか理系を副専攻にしていないという問題がある。

・学生1（共生文明学専攻）：私は理系の授業も楽しく受けているが、文系では怖がって手が出せないでいる人が多い。受講者のクチコミをシラバスなどに添付するなどの工夫をして、こころの障壁をなくし、最初の一步を踏み出せるようにすべきである。

・学生2（主専攻では国際文明（日本史）、副専攻は人間科学（哲学））：自然科学の根拠を考え直すレベルの哲学研究があるなど、それぞれの学門の根拠から問題を作り出すというレベルにならなければ、ただ単に知識として理系、文系をかじっているだけでは、総人・人環にくる意義はない。

・杉万：「理系の先生-学生-文系の先生」の師弟関係が形成され、その「三角関係」から学生を触媒として両方の先生の間で議論が始まるのが望ましい。

・学生2：私は歴史関係と認識論関係の両系にまたがっているが、両先生間の議論が起こることはない。

・杉万：文と文の間ではなく文と理の横断ができるほどの両系の選択が望ましい。

・阪上：歴史・哲学、英語・日本語だけでも距離感は大きい。理系は共同研究、共同執筆が普通だけど、文系教員の共同研究（共同執筆）は難しい観がある。

・学生3（理系から文系へ転換した）：何のための文理両道なのか？

・杉万：文理の研究対象や研究方法はかなり違う。だからこそ、両方に触れ、学部生の中に、理系（あるいは文系）はこのようなことをやっているという実感を持って欲しい。文系の敷居と理系の敷居の両方をまたぐ経験をして欲しい。

・学生3：系列別の相異をテーマにする講義はないか？

・杉万：理系・文系を主専攻にする学生を念頭にカリキュラムを考えるきっかけが必要であると考えている。

・学生3：実際問題として、理系のカリキュラム、文系のカリキュラム両方を並行するのは時間的に無理がある。

・阪上：入門科目は系列の違いを知る上で役に立たないのか。各論になってしまっている面もあり、先生が入れ替わることで先生個人の研究分野について知ることはできるけど、自分のなかで統合されない、という指摘もあったが。

・杉万：総人が作られて以来、「教員側はメニューを提供するので、統合は学生次第」という姿勢でやってきたが、それでは教員側が甘すぎたのかもしれない。学生の立場に立って授業プログラムをデザインすべきであると考えている。

卒論指導について

・学生3：ゼミをとるとき、演習が多く、卒論指導の授業がないので不安を感じる。-教員2：卒論って授業を受けながら書くものか？-学生1：コマをもらえて、毎週先生と論文について相談したり、書いた論文を修正してもらったりするのが助かる。

・阪上：丁寧に卒論指導をする先生も多いし、その問題は制度の問題というより、先生個人差の問題のように考えられる。

前回は踏まえて、新たな質問と願い（学生2より）

Q1. 一ヶ月の間に行ったこの集いの内容、学生からの意見を教員との間で議論したのか。

A1. 総人・人環の改革の時期であることを実感している。内発の改革の時期である。総人・人環改革のために先生たちと開いた会議でも、総人の茫漠たる自由をどうしたらいいかという問題を議論した。年内に骨格を作って改革する動きである。

Q2. 文理両道理念から総人・人環で勉強するなかで、どういう人間になるのか、先がみえないということとは、他の学部の学生と違う悩みである。（たとえば法学・経済は方向性がはっきりしている）職業に繋がらなくても、何かモデルを提示して欲しい。お願い：先輩たちがどのようになっていくのかを知る場を設けて欲しい。安心感を与えてくれる場が必要である。ex)同窓会、卒業した人のメッセージなど。

・金：貴方自身の目指す人物像はどういうことか。

・学生2：歴史博物館の学芸員を目指している。社会との接点があるところで教育・研究の活動をかねていきたい。

A2. イメージ作りについては、企画している。同窓会などの場もある。

・学生2：入試前、入学、4年間通じて進路に対して、インセンティブになるような情報が得られることを望んでいる。どのような勉強をして役に立った、それからどのように方向を決めたか、というような先輩たちの入学から進路にいたるまでの路程を。

・阪上：理学部の場合は、あまり迷わない。最初は研究だけを目指し、研究が向いていないことが分かれば企業に行く、という感じ。

・金：文系の場合は、迷い放題である。個人的なことをいうと、四年間ずっとふらふらした。哲学・宗教学・社会学・自然科学（概論だけ）などの授業を聞きながらさまよったけれど、それは進路を決めるレベルの問題ではなかった。大学に入って知的衝撃をうけた。学門の前提を批判的な目でみることになったし、社会をみる目も変わった。それでいて確認したのは、定着できず揺れ動く、そのあり方が正しいんだ、ということ。蓄積された認識方法を批判的に見直さない学者には厳しくなったかも。（もちろん就職を目指している学生さんには違う姿勢で対応するけど）

・学生2：公式的なチャンネルで先輩からの悩みの路程を発信して欲しい。この議事録も含めて。

・学部長、阪上、金：内容に問題なければウェブページに公開することを検討する。